

## 自衛隊神奈川地方協力本部

## 潜水艦研修

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 勝呂 拳人

6月24日(金)、この日は潜水艦に乗船できる日で、ワクワクした気持ちで私たちの乗った車は、横須賀米軍基地の三笠ゲートを通り抜けた。その先にある軍港の敷地内に入ると、車内にいる私たちに向けて多くの自衛官や米海軍の軍人が手を振って笑顔で迎えてくれた。

ゲート通過後は、同乗した海上自衛隊の隊員の解説付きで、敷地内にある明治時代から続くレンガの古い建物などが見らえることができ、歴史を感じた。

接岸していた潜水艦は、水面から上部しか見えないため外観はあまり大きく感じなかったが、乗艦するとたくさん機材がびっしりと搭載されており、食堂や居住区まで見学することができた。食堂の長椅子の下にはジャガイモなど野菜が入っていたり、スペースを無駄にしないような工夫が面白かった。日本を守るために海中で訓練し、任務を遂行する海上自衛隊の存在を改めて知った。活動待機中なので艦内を見学しただけであるが、実際に水中に潜ったらどんな感じなのか体験してみたいと思った。

## 潜水艦研修

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 阪西 貴広

カレッジ防衛モニターとして、横須賀基地において潜水艦体験乗艦に参加した。海上自衛隊の潜水艦隊は主に呉基地と横須賀基地にあり、横須賀では米軍基地内に潜水艦が係留されているため、一度米軍基地に入らなければならぬ。米軍基地内は、ある程度日本風なところが見られるが、標識や建物の表示は英語である。面白いことに、米軍の艦艇を整備する大型クレーンには一つ一つに名前が付けられており、「セキトリ」や「カイジユウ」といった名称にユーモアを感じられた。また、米軍の兵士と自衛官は定期的にプライベートで交流をしているそう、それが共同訓練や災害派遣で活かされているのではないかと思った。

海上自衛隊の庁舎に到着し、潜水艦についての説明を受けた。海上自衛隊創設当初から中盤までの潜水艦は、主に水上航行をするため水を切る形になっており、特徴は水面下が赤く塗装されているそう。近年ではバッテリーの技術の進歩により、水中での運動性を高める形状となり、全体が黒いのが特徴だ。説明終了後、実際に潜水艦に乗艦した。まず、潜水艦のデッキに上がって思ったことは、意外と傾斜がきつくなるとのことだ。また、静粛性を高めるために全体がゴムで覆われている。ハッチはとも登り降りがしにくく少しく怖かった。艦内は狭く配管などが剥き出しのところもあり、機能性を重視していることが伺える。発令所には海図の机、操舵席、ソナー室などがあり、潜望鏡が二本ある。そのうちの一本を見させていただいた。潜望鏡は半円を描くように見ることができ、潜行中周りを全て見回せるようになっていて、もう一本は倍率が高くなっているそう。機関室も発電機が剥き出しだった。火災の際にはハロゲン消火器が備えられており、区画を閉鎖することで迅速に消火できるようにしている。魚雷発射区画では魚雷の搭載方法は意外だった。艦首上から斜めにベルトコンベアを使い搬入するそう。潜水艦の艦内を見学できる機会はまなかなかないと思う。そう思うと今回の体験はとても貴重だと感じた。今回お世話になった乗員の方々は、日々、日本の平和と安全を護るために任務に就いており、その姿に感銘を受けた。

## 市街地広報

神奈川地方協力本部厚木募集案内所(所長 酒井一海尉)は、6月27日(月)から7月1日(金)までの5日間、小田急線厚木駅および田園都市線つきみ野駅周辺で市街地広報を実施した。

本活動は、市街地広報が未実施の駅周辺の方に自衛隊をPRすることを目的にリーフレットとティッシュを配布した。

周辺住民の方からは「暑いのお疲れ様です」といったねぎらいの言葉の他にも、「興味があるのでリーフレットをもらってもいいですか」と近づいてくる学生もいた。特に7月1日は高校に対する募集開始に伴い、高校生の帰宅時間に合わせた時間を設置し、厚木駅での活動には神奈川地方協力本部募集課長(山口2陸佐)も現地確認に訪れ、共に募集広報を実施した。募集課長自ら駅頭に立つことで、広報官は厳しい募集環境をさらに強く認識し、広報官の市街地広報への熱意は青天井となった。

厚木募集案内所は、「今後も、地道な活動を通じて自衛官の認知度を上げ、志願者を獲得し任務達成に寄与したい」としている。



迷彩を着て旗をもつ正田2曹